

第6学年 算数科学習モデル指導案

1. 単元名 「資料の調べ方」

2. 本時について

(1) 本時の目標

○統計的な観点で整理した表をつくり、どのように考察するかを考える。

(2) 本時の展開(最後の15分の展開)

分	教師の支援	学習活動
1	☆ワークシート1「平均だけで考えても、いいのかな？」を配付し、たかしさんがちらばりの様子を表す表を見せてほしいと言った理由について考えさせる。	
3	<ul style="list-style-type: none"> ●マンガの最初のコマで「たかしさんが平均冊数について疑問をもった場面」を捉えさせる。 ●たかしさんがちらばりの様子を表す表を見せてほしいと言った理由を考えさせる。 	<p>T: たかしさんはなぜ、自分の読書冊数がクラスの平均読書冊数より少ないはずがないと感じたのでしょうか。</p> <p>C: 友達との会話を見ると、読書冊数が多い人はそれほどいないと思ったからじゃないかな。</p> <p>C: 読書冊数がとても多い人が一人でもいれば、全体の平均の値は高くなると考えたんじゃないかな。</p>
5	☆ワークシート2「夏休みに読んだ本の冊数調べ」を配付し、読書冊数を度数分布表から柱状グラフに整理させて、グラフから気づいたことを発表させる。	
5	<ul style="list-style-type: none"> ●度数分布表をもとに、クラスみんなが1か月に読んだ本の冊数を柱状グラフにまとめさせる。 ※ワークシートに柱状グラフをかかせる。 ●グラフをもとに気づいたことを発表させ、いろいろな考えに触れさせる。 	<p>T: 実際に柱状グラフに表してみよう。どんなことに気がつきましたか。</p> <p>C: あれれ、ぼくよりたくさん読んだ人は多くないみたいだぞ。</p> <p>C: どうして平均より少ない人の方が多いんだろう？</p> <p>T: 読んだ冊数が飛びぬけて多い人が一人でもいれば、平均の数値は高くなってしまうことがわかりましたね。 平均だけで判断すると、実際とはちがうように数字が読み取れてしまうこともあるのですね。</p>
1	☆キャリアの宝につながる解説(児童への落とし込み)をする。	
<p>わたしたちの生活の中には「平均」という見方をする場面が多く見られます。たかしくんの読書冊数の調査からわかるように、受け取った情報は、ひとつの見方(ここでは平均)だけで判断するのではなく、目的にあわせて複数の方法で分析し、正しく読み取っていくことが必要です。見たままに情報を鵜呑みにするのではなく、「本当にそうかな？」と批判的に情報を受けとめ、多面的に判断できるようになることも必要ですね。</p>		